


イタリア共和国		首都	ローマ
 <p>独立：1861/3/17 イタリア王国 国連加盟：1955/12/14 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 30万 1,000 km ² (日本の80%) 地中海に伸びる長靴状のイタリア半島と周辺のシチリア島、サルジニア島からなる。北部はアルプス山脈、半島部はアペニン山脈が縦走り、南半分は火山帯にまたがり、ベスビオ、ストロンボリ、エトナなどの火山がある。平野部は、国土の20%で、ポー川流域のロンバルディア平原、アルノ川流域のトスカナ平野などがある。
		人口	5,810万人
		言語	イタリア語 (公用語)
		通貨	ユーロ
		気候	北部は大陸性気候に近く、南下するにつれて温暖乾燥の地中海性気候の特徴が強まる。アルプスが自然防壁となり、全般に温暖である。
		民族	イタリア人 98%
		宗教	カトリックがほとんど、プロテスタント ユダヤ教、イスラム教
		教 育 制 度 の 概 要	学校体系
義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1～5年生、中学校1～3年生までの8年間である。 ・EU諸国の競争力を高めるために教育改革を進め、将来、義務教育は18歳までの教育が権利であり、義務である。 ・15歳から選択分野により修学年数は異なるが(最短3年間)、専門・養成校もある。 ・授業料は、公立学校の場合、初等学校までは教科書を含め無料であるが、前期中等学校では教科書は有償となる。その他の経費としては、保険料、給食費、スクールバス代などがある。 ・障害児にも同等の教育を受ける権利が法律で定められていることから、通常のクラスで受け入れる整備(障害児を補助する教師を別に付けるなど)を学校は求められる。 		
日本と比較した教育課程上の特徴	・9月初中旬～翌年6月中下旬が学校年度であるが、州、学校、年によって異なる。始業日は直前にならないと判明しないことがある。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 学期制を採っており、1 学期は 9 月初中旬～1 月下旬、2 学期は 2 月初旬～6 月中旬である。 ・ 小学校は週 27 時間の学習義務と、その他に 3 時間の任意授業があり、生徒と保護者の希望により科目を決める。 ・ 中学校では週 27 時間の学習義務と、その他 6 時間の任意授業がある。 ・ 昼食を家庭でとる生活習慣から、午後 1 時までは下校する日程が普通であったが、近年、英語教育の導入や保護者の要望から、午後まで授業を実施する学校も増加傾向にある。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校卒業時に行われる国家試験に合格した者が高校に進むことができる。日本のような入学試験はない。 ・ 高校は文化系（人文、法律等）・理科系（工業、化学等）・職業系（機械、食品等）の 3 系統に分かれている。 ・ 高校は単位制で落第もあることから、学業を途中で放棄することも多いので、生徒が学業の系統を途中で変更することが認められている。卒業試験は難しい。 ・ 大学に関しては、高校終了時に全国一斉に行われる国家試験（卒業試験）に合格していることが入学の条件であり、理系の学部などを除き、別途入学試験は行われぬ。論文形式の教科統合問題である。 ・ 高等技術教育（19 歳～就学年度は専攻科目によって異なる）もある。 ・ 高校・大学ともに中退が多いようである。卒業するのは入学生の半分くらいで、中退した生徒は就職するか、他の専門学校に移る。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務ではないが、0～2 歳児対象の保育園、3～5 歳児が対象の幼稚園がある。国立の幼児学校の授業料は無料で、保険料及び給食費のみを支払う。 ・ 保育学校では、14～28 名の集団（同年齢の場合も異年齢の場合もある）が作られ、各集団に 2 名の教員がつき、家庭の状況に応じて、週 5 日あるいは 6 日、1 日 8 時間保育を行う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区はあるが、希望すれば学区外でも許可される。小学校の 5 年間は担任の持ち上がりが原則なので、良い学校・教師を求めて学校選びに拍車がかかっている。 ・ 学校は教育を提供する場所で、躰を徹底させる場所ではないことを社会・保護者ともに理解している。

		<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の導入を推進している。
学校生活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業は6月下旬～8月下旬の2～3カ月間である。 ・冬季休業は12月末～1月6日までである。 ・イースター前後に1週間のほどの休みがある。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の5年間は、持ち上がりが原則で、小学校1・2年生は、教科書がなく、担任の手作り教材で教える。3年生からは教科毎に担当の教師から使用する教科書の指示があり、各自が購入する。中学校でも教科担任制になり同様に進められる。 ・1学級20～25人で、学年2～4学級の学校規模が多い。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から中学校への進級試験は行われない。 ・中学校終了時にイタリア語、外国語、数学の3教科については筆記試験と口述試験が実施される。修了試験は5段階で評価され、上位4段階が合格となる。合格者は高校入学の基礎条件となり、中学校修了証を授与される。 ・高校の修了試験は全国共通の統一テストが1カ月にわたって行われる。教育省から2問、もう1問は校内の委員会で作成し、口頭試験が行われる。 ・テストが頻繁に行われ、成績が悪いと落第する。 ・評価は4段階の絶対評価で2月と6月に保護者が受け取りに行く。 ・飛び級はまれであるが、小学校から実施されている。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育期間を通して、日本のような学習指導要領はなく、教師の範囲内で学習内容・教科書を選択している。 ・学校の授業は国語、数学、理科、社会、外国語がメインである。 ・近年は、特に外国語教育とコンピュータ教育を積極的に取り入れている。公立小学校の1年生に英語とコンピュータが導入された。 ・宗教の授業が設置されているが、近年では選択制度に移行している。 ・技能教科に関してはほとんど行わない。本来は家庭が担うものという考えがある。 ・体育的な活動は地域のクラブで、美術・音楽的な活動は家庭教師の世話になることが多い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本的な部活動はない。 ・ローマ市内の文化系の高校では、科目が 13 あり、中にはラテン語やギリシア語、芸術史といった古典文化を学ぶ教科もある。英語・フランス語の外国語と宗教の選択教科のほかはすべて必修である。
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな学校行事はほとんどない。クリスマス前や学年末に小さな行事があるが、何時間も練習して行わない。 ・入学式や卒業式などの儀式は一切ない。 ・美術館・博物館見学は教科の授業の一環として行われている。 ・体験学習は高学年から 1 週間程度の期間で実施されている。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校までは給食が出されることが多い。 ・給食はない学校では、その代わりに 10 時頃におやつタイムがあり、サンドイッチなどの給食を食べる子どももいる。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の切れ目にチャイムはある。
教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表することを重視しており、他人の考えを聞いてそれについて意見を述べ、子どもたちに聞く姿勢と自分の考えを発表する能力がついている。 ・公立の小・中学校には、基本的に制服はない。一部の私立高校で「ステータスシンボル」的に制服の着用を図ろうとする試みがあったようだが、なじまないようである。 ・高学年になるほど宿題の量は多くなる。宿題をやらないと落第になるので、ほとんどの生徒はやっている。
校則	<ul style="list-style-type: none"> ・通常、文書化された校則や制服はなく、子どもの自主性に任されている。 ・服装や髪型などの校則は一切ない。 ・「躰」を含めて、生活面は「家庭の責任」とされている。
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観はない。 ・PTA という組織はないが、中学校以上には保護者会があり、学校運営に協力している。
子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・8 時 30 分開始で、午後の 3 時頃に帰宅する。小学生は保護者が学校まで送り迎えをする。外出も小学生は一人では法律違反になる。犯罪に巻き込まれやすいことも理由の一つである。 ・午前中だけの学校もあり、午後は各家庭で、各個人で、自分の好きな習い事をする子どもが多い。

		<ul style="list-style-type: none"> ・放課後や休日は、勉強やスポーツ、友人と遊ぶなどと日本の高校生と変わらない。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に保健室はなく、切り傷等の応急手当はしているが、基本的に具合が悪くなったら家に帰す。 ・校長は1校1人配置ではなく、一人の校長が一つの区域の幼稚園・小学校を担当する。 ・小・中学校は登校時間が終わると校門は閉じられ、鍵がかけられる。学校の敷地の周囲は鉄柵や塀で囲まれ、教師も子どもも自由に入りはできない。用事のある保護者は閉められている校門のインターフォンで連絡をとり、やっと中に入れてもらうことができる。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教授言語はイタリア語である。但し、北部のスイス・フランス国境地域では、ドイツ語、フランス語が使用されることもある。 ・日本語の学習では、「八行」の子音が脱落してしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特にない。
	指による数え方 計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面の練習が少ないので、4年生でも指を使って計算する。 ・買い物をして、おつりをもらうときに、細かいお金からもらっていく。日本のお金で例えれば、538円の買い物をして、10,000円札を出せば、2円→10円→60円→400円→9000円と渡される。つまり、引き算が苦手で、足し算して合計10,000円にしていく計算のやりかたである。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食は、パンとコーヒー等の軽食が多い。昼食は個人差があるが、時間をかけて食する習慣がある。大人も家に帰って13:00～16:00ぐらいまで休憩をとる。ワインも一緒に飲む。夕食も20:00以降で、時間をかけ、家族そろって食べる場合が多い。家族の絆を大切にしている。各家庭の伝統的な料理も存在する。 ・魚介類を生で食べる習慣はなく、地中海でとれるせいか、脂分が多い。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・建物は石造りで、夏は涼しく、冬は暖かい。都心部は日本でいうアパート・マンションが多い。管理人がいる場合が多い。 ・外観は新しく見えても、水回りや電気の配線などは古いも

	<p>のが多い。大理石が多く使われているため簡単に直せないのかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床が大理石であるため、部屋の中の音が響くので、時間帯によって、物音を立てないように静かに生活する必要がある。 ・室内はスリッパ等で過ごす。バスとトイレが一緒である。 ・郊外に行くと一軒家も見られる。
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は左ハンドルで右側通行である。路上駐車も場所によってはゆるされる。 ・交通マナーはあまり良くない。赤信号で待っていても、他に通行者などがいなければ後ろからクラクションを鳴らされ、「早く行け」と追い立てられる。バイクは、渋滞していれば、反対車線を走ることがある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかくおおらかで、小さいことは気にしない。言いたいことは、ずばずばと言う。 ・世界的にも携帯電話普及率が高く、高校生になるとほとんどの生徒が持っている。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ミラノ日本人学校・・・・・・・・・・・・・・・・月刊「海外子女教育」
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・海外日本人学校勤務経験教員より（3名）